

2024/06/17 令和6年度 第2回 宿泊税導入検討会

議事録

■開催日時

2024/06/17

■場所

那須町役場

■出席者

- 1 阿久津 千陽（那須町観光協会）
- 2 片岡 孝夫（那須温泉旅館協同組合）
- 3 薄井 正明（那須町商工会）
- 4 三森 康雄（那須町森林組合）
- 5 室井 廣美（那須野農業協同組合）
- 6 並木 敬二（那須レジャー施設協会）
- 7 大輪 洪一（那須地区ホテル&レジャー施設連絡協議会）
- 8 廣川 琢哉（那須インバウンド協議会）
- 9 真山 高士（那須エリアネイチャーツーリズム）

・観光アドバイザー

- 10 山田 桂一郎（観光カリスマ）
- 11 高橋 佑司（株式会社リクルート 旅行 Division 地域創造部 部長）

・オブザーバー

- 12 五艘 みどり（帝京大学経済学部地域経済学部准教授）
- 13 斎藤 憲彦（那須町財政課長）
- 14 横塚 誠司（那須町税務課長）
- 15 増子 政秀（那須町観光商工課長）

・事務局

- 16 伊藤 美香（那須町観光協会 事務局長兼 DMO 戦略室長）

- 17 久保田 大輔（那須町観光協会 DMO 戦略室次長）
- 18 岩渕 英人（那須町観光協会 戦略企画室次長）
- 19 林 健（那須町観光協会）
- 20 栗栖 敦貴（那須町観光協会）
- 21 藤田 健一（那須町観光商工課 課長補佐兼観光振興係長）
- 22 小船 純一（那須町観光商工課 観光振興係主査）
- 23 櫻井 有希恵（株式会社リクルート地域創造部グループマネージャー）
- 見学 生井 龍介（那須塩原市産業観光部ツーリズム推進課 観光政策係長）
- 見学 高久 学（那須塩原市産業観光部ツーリズム推進課 観光政策係主査）

■会議資料

- ・ 令和 6 年度 第 2 回宿泊税検討委員会次第
- ・ 那須町宿泊税導入検討委員会 名簿
- ・ 宿泊税導入に至った背景①
- ・ 宿泊税導入に至った背景②

■議事録

1 開会

2 観光協会長挨拶

3 議事

（1）那須町の現状とありたい姿について

那須町の現状とありたい姿について説明。

資料：「宿泊税導入に至った背景②」を参照。

- ・ 宇都宮市、日光市、那須塩原市と比較し、那須町の人口減少率が一番高い。また、那須町の労働生産性は、全国平均と比べ 3,000 円以上低く、栃木県においても一番低い労働生産性となっている。那須町の企業数は、観光業＝宿泊、飲食サービス業が圧倒的に多く、観光業を通じて那須町のファンを増やすこと、労働生産性を上げていくことが必要であると考え。そのためにも宿泊税を導入していきたいと考える。（伊藤美香）

資料：「宿泊税導入に至った背景①」を参照。

- ・ 喜びに満ちた町づくりを実現していくにあたって、生活、教育、環境の充実が必要であるが、それぞれに対して課題がある状態。ありたい姿の実現に向け、宿泊税導入を検討したい。（伊藤美香）

(2) 宿泊税制度に対する観光協会案について

観光協会案について説明。

資料：「宿泊税導入に至った背景①」を参照。

- ・ 宿泊税は、定率 2%を原案としている。
- ・ ルームチャージのみが宿泊税の対象となる。ただし、割合を統一し、1泊朝食付の場合は全体価格の 9 割が税の対象、1泊夕食付の場合は全体価格の 8 割が税の対象…というようにしていく。
- ・ 上限は 1,000 円の方角とする。
- ・ 【用途案 その 1】用途は、DMO が掲げるありたい姿の実現として、税金・教育・観光に使用する。(詳細は資料に記載)
- ・ 【用途案 その 2】徴収していただく宿泊施設の皆さまへの手数料は 5%を検討中。この手数料を原資に、更なるおもてなしの向上に努めていただき、那須町のロイヤルカスタマーを増やしていきたい。
- ・ 【用途案 その 3】コロナや災害時などの救助金「那須町観光基金(仮称)」として徴収した宿泊税の一部を積み立てしていきたい。

(3) 意見交換

○ルームチャージの比率の妥当性について

- ・ ルームチャージの比率について、妥当性を示すことはできるか。他の地域の事例はあるか。(横塚誠司)
- ・ 特に他の地域の事例はない。(阿久津千陽)
- ・ 税なので根拠を示す必要がある。例えば、町内のデータ等、明確な根拠があると良い。(斎藤憲彦)
- ・ アンケートを取得する予定である。ただし、アンケートで正しいデータを申告いただくことは難しく、アンケートで取得したデータを参考にすると 7 割~8 割も徴収できないのではと思う。(伊藤美香)
- ・ 税である、且つ申告税であるので、正しい根拠に基づくことが必要だと考える。(斎藤憲彦)
- ・ 必要な税込金額から逆算して考える必要があるのではないか。(片岡孝夫)
- ・ 我々としても 100 点の案ではないと思っている。100 点の案もなかなか無い中で、腹決める必要がある。(阿久津千陽)

○参加者からの意見

- ・ 小規模事業者からも徴収することを考えると、定率 2%は優しい数字で良いと思う。上限 1,000 円も良いと思う。ルームチャージの比率については検討が必要だと思う。(薄

井正明)

- ・ ここで決めても不満や意見は生じると思う。旅行者に対して還元することを第一に考え、他に事例がなくとも那須町モデルとして考えを作っていけば良い。説明を求められた時にしっかり説明できる内容を用意しておくことが大事。(廣川琢哉)
- ・ 事業者の皆さまへの説明は来月の説明会でも実施する予定。(阿久津千陽)
- ・ なぜこの比率なのかという説明は求められる。(三森康雄)
- ・ 長期の考えは理解でき、この通りだと思う。事業者は5年後、10年後を気にしているので、中期的な考えもある方が事業者は納得すると思う。(並木敬二)
- ・ 内税形式でやっている事業者は更に税が増えるのは大変なので、小規模事業者にとってはできれば低い税率としてほしい。(薄井正明)
- ・ 一般のお客さん向けの税金の表示をどのようにするか。入湯税 150 円は伝わりやすいが、いくつかパターンのある定率をどのように示すか。また、上限 1,000 円はなくても良いのでは。もっと高くても良いと思う。(大輪洪一)
- ・ 同じ 1 泊なのにこの税の違いは何なの？と説明しづらいと思い、上限 1,000 円が良いと考えた。(片岡孝夫)
- ・ 表示方法については、徴収制度が固まったら文言を統一して、事業者も旅行者も戸惑わないようにしたいと思う。(伊藤美香)
- ・ 他の地域だと、じゃらんのような OTA 上では、プランの料金特記のところに宿泊税について記載するようになっている。例えば京都市では、「京都市の条例に基づき～」のような文言をつけることであまり詳細までは記載していないケースも多い。(高橋佑司)
- ・ 宿泊税によってごみが減ったね、まちが綺麗になったね、と目に見えて分かりやすい効果があると良いと思った。「国立公園の町民として」という言葉が良いと思った。(真山高士)
- ・ ルームチャージの割合については検討が必要だと思う。(増子政秀)

○ルームチャージの比率の妥当性について (つづき)

- ・ 皆さんの意見をまとめると、検討が必要な要素はルームチャージの割合だと思うがどのように出すことができるか。(阿久津千陽)
- ・ アンケートで集めたとしても正しいデータは十分な数集まらないのではないか。観光庁データのような統計データを参考にするのが良いのではないか。(片岡孝夫)
- ・ 目的税なので、目標を定め、その目標を達成するためにこの税率なのだという伝え方は良いかもしれない。(斎藤憲彦)
- ・ 旅行会社のキャンセル規定で定めている金額が参考になるのではないか。(廣川琢哉)
- ・ 明日、宿泊事業者 823 軒にアンケートを取得予定。その中に宿泊額、食事額の項目もあるので、根拠として使用できる可能性がある。また、北海道の倶知安町では、金額は分からない場合は、1 食あたり 10%、2 食あたり 20%で税収するようにしている事例

がある。(藤田健一)

○その他

- ・ ルームチャージの比率については根拠を示せるよう準備をするが、その他いかがか。(阿久津千陽)
- ・ 上限の 1,000 円は設けなくても良いのではと思う。(増子政秀)
- ・ 上限 1,000 円に引かかる施設はほとんどない。(阿久津千陽)
- ・ 大変なのは宿泊事業者なので、日帰り事業者としても理解をしてサポートできる体制を整える必要がある。説明会にも日帰り事業者も参加できると良いと思う。(真山高士)
- ・ ゴールのところまで示さないと納得は得られないと思うので、今回はそこまで示せるようにしたい。(阿久津千陽)

4 有識者アドバイス

○五艘みどり氏 (帝京大学経済学部地域経済学部准教授)

- ・ 使途案が明確になることが必要であると感じた。
- ・ アンケートを取得すると良いと思う。
- ・ 役所として使いたい、DMOとして使いたい、事業者として使いたいというものが違うと思うので、それぞれ考えていく必要がある。
- ・ 宿泊者から徴収するものなので、宿泊者に還元されていく使途があると良い。
- ・ 自然を維持していくこと、維持していくための啓発に

○高橋佑司氏 (株式会社リクルート 旅行 Division 地域創造部 部長)

- ・ 栃木県のデータを見ると、朝食 1650 円、昼食 1670 円、夕食 3410 円だったので、妥当性を示せるのではと思った。
- ・ ありたい姿を実現するために何をすべきなのをもっと棚卸ししていく必要がある。
- ・ 経費という項目があるのであれば入れておいた方がいい。
- ・ チケット付きプランのような場合どうするかは考えておいた方がいい。

→第 1 回で細かすぎて分かりづらかったと思い、今回は大まかに書き方を変えていた。もう少し細かく記載することは可能。(伊藤美香)

○山田 桂一郎 (観光カリスマ)

- ・ 今回、那須塩原市の方も来ていただけて良かった。
- ・ 日本には明確な星の制度 (五つ星、等) がないので、相場観が掴みづらいと思った。
- ・ この機会にルームチャージを明確化するのはどうか。海外ではルームチャージは明確なので、この機会にグローバルスタンダードに合わせるのも良い。

- ・ 上限はいらないと思う。徴収額が多いところには還元率を高めるのが良いのではないか。
- ・ そもそも経済政策なので、合意形成は難しい。

5 閉会

以上